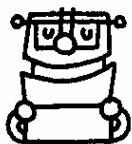


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
人と動物の体 / 理解シート

二酸化炭素は、有毒なの



二酸化炭素が空気中にたくさんふえると、二酸化炭素中毒になって死ぬこともあるのさ。

二酸化炭素は、塩素やサリンのように、ほんの少し吸っただけで、苦しくなるような毒ガスではありません。けれども、二酸化炭素が多くふくまれた空気を吸っていると、意識がなくなり、死ぬこともある危険な気体です。

二酸化炭素は、木や紙、石油などを燃やすと出てくる、色もおいもない、空気より重い気体です。そのため、古井戸の底などに二酸化炭素がたまり、そこに入った人が、酸素不足でちっ息して死ぬ事故がよくあります。

空気中には、ふつう、酸素がおよそ20%ふくまれています。この割合が12%以下になると、呼吸がむずかしくなるといわれています。

二酸化炭素の量がふえると、危険

空気中には、ふつう、二酸化炭素は、0.03%しかふくまれていません。二酸化炭素が急にふえて、5%ぐらいになると、人間は頭がぼうっとした感じになります。10%をこえると、体がふるえ耳鳴りがし、1分ぐらいで意識がなくなり、30

%をこえると、仮死状態になり、そのままにしておくと死んでしまいます。

酸素が約5分の1、二酸化炭素が約5分の4の割合の気体をイヌに吸わせると、1分で呼吸が止まり、数分で死んだ例があったそうです。酸素があっても、二酸化炭素の量が多ければ、危険なのです。

せまい室内で、ドライアイスに水をかけて、大量の二酸化炭素を出す実験などを行うのは危険です。必ず、窓を開けて実験しましょう。

二酸化炭素って、こわいのね。

